

インタビュー
コーナー

県医師会の皆様、那覇市医師会の皆様、今後も医師会活動にご理解とご協力、そしてご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



那覇市医師会 会長
真栄田 篤彦 先生

Q1. この度は、那覇市医師会会長への就任おめでとうございます。

就任に当たっての感想と、今後の抱負をお聞かせ下さい。

那覇市医師会第67回定期総会で、那覇市医師会会長に就任しました。

就任に当たっての感想としては、先ず那覇市医師会は14億2千万余円の大事業をしている一企業として捉え、この事業を支えてきた那覇市医師会員の先生方と、そして事業運営に携わっている職員の多くの面々が思い浮かびまして、本当に慎重に、そして無駄のない様に医師会運営をして行こうと決意いたしました。したがってこれまでのサブの形で身軽な気持ちではなく、自分自身にのしかかる責任の重大さを改めて再認識しました。今日までの長い医師会の歴史の中であって、大先輩先生方が築いてきた那覇市医師会の伝統と資産を大事に守りつつ、更に発展させるにはどうすればよいかを考えていました。勿論一朝一夕には出来ませんが・・・。当会の理事とともに頑張っ参ります。

Q2. 今回、地区医師会長と県医師会常任理事を兼任されておりますが、その点特にご苦労なされていることがありますでしょうか。那覇市医師会は平成8年から理事として就任

していますが、県医師会理事は平成10年から就任しています。今日までの医師会活動もあつという間の感じです。

地区医師会も県医師会も多くの委員会があり、自分が担当する委員会の開催に関して、日程調整でブッキングが起きたり、どちらを重視して出席するとかで困ったことがありました。でも、平成10年から県・地区医師会ともに同じ学校保健委員会担当理事のときは、会務運営上はとてもいい仕事ができ、兼任も忙しかったですが、このようにいいこともありました。県医師会館建設担当理事のときは、非常に県医師会が忙しく、那覇市医師会での種々の委員会を欠席することも多々ありました。

現在、地区医師会長になってからは、益々委員会開催の日程調整が忙しくなっています。

Q3. 那覇市医師会は、健診センター・検査センターを運営されておりますが、現状と今後の見通しについてお聞かせ下さい。

那覇市医師会は、各種運営していますが、生活習慣病検診センターに関しては現場の責任者は崎原永辰先生がセンター長で、一生懸命運営しています。本当に感謝しています。また、友利常任理事が担当理事で、重要な委員会なの

で、これまでの三役経験者や理事経験者を運営委員会に参加していただき、同委員会での重要事項に関する協議結果に関しては必ず理事会で協議事項として十分審議してから、実行に移しており、今日まで発展してきました。今後も同センターが発展するように努力して参ります。

検査センターに関しては、検査企業のSRL様と共同提携としてすでに今年で10周年を迎えています。当会ではこの事業も大変重要な位置にあります。医師会とSRLとのジョイント方式は「那覇市医師会方式」として、前副会長の伊集守政先生が担当して、九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会等で報告してから、九州のみならず全国的にも注目を集めており、過日は岡山県医師会からも当会訪問がありました。今後も重要事業として鋭意継続していく決意です。会員の医療機関はまだ厳しい経営状況ですが、今後も会員の協力をお願いしていきたいと思っております。

Q4. 那覇看護専門学校は県内の看護師育成の重要な役割を担っていると考えられますが、先生のお考えになる看護師養成、または人材育成に対する熱意の程をお聞かせください。

当会は那覇看護専門学校を運営していますが、昨年度、友寄英毅前会長の時に、看護学科を創設しました。看護学校の運営も、又教育の場としても大変重要なところですが、医師会長が兼任すると時間的制約で十分な協議ができず、副校長の垣花先生が大変調整等で苦勞や当校の発展の障害になりかねません。これまで歴代の医師会長が校長兼任でしたが、友寄前会長がそのまま、校長として継続していただくよう私からお願いしました。今後は専任として十分に学校運営に参画できますので、当看護専門学校が益々発展していくものと期待しています。優秀な生徒を教育するためには近隣の大病院の現場での実習が重要になってきます。これまで、南部医療センター・こども医療センター、南部徳洲会病院、沖縄協同病院、那覇市立病院、そのほか当会所属の大きな病院の協力によって学生

の実習が成り立っています。この紙面をお借りして関係病院の皆様方に感謝申し上げます。

看護学校の生徒は、多くの関係医療機関のご協力を頂いて初めて素晴らしい看護師になります。今後も多くの関係各位の協力を頂く必要があります。

また、昨年の各地区医師会連絡協議会（中部地区医師会担当）で、宮古地区からの推薦入学生を受け入れて欲しいとの要望があり、現在、当校では鋭意協力できるよう検討中です。地区医師会が連携して看護師養成が出来ることはとても素晴らしいことだと思います。

Q5. 那覇市医師会の活動の中で特に力をいれたい取り組みがありましたら教えてください。

那覇市医師会では、約6年前から病診連携委員会が機能しています。当会の先生方の患者で、入院が必要になったり、あるいは高度医療を必要とした時点で、速やかにスムーズに病院へ紹介できるようになって来ました。これも、病院の先生方や連携室のスタッフと診療所の先生方やスタッフが那覇市医師会館に集い、懇談を通して顔見知りになり、より緊密に連携が出来るよう企画してたことが功を奏したと思います。糖尿病や認知症に関する連携に関しても、当会ではもっともっと進化して、会員への講習会やロールプレイ等に参加していただき、在宅医療システムや介護関係の連携を含めてこれからの高齢化社会に適応して行くべく体制をとって行きたいと考えています。

Q6. 那覇市医師会は、那覇市（行政）と密接に連携して医療福祉行政の向上に力を入れておられますが、特徴と那覇市医師会から行政へ特に提言していること等がありましたら、教えてください。

那覇市行政とは特に各種検診事業の委託とか予防接種事業の委託、学校保健事業など重要な事業を市と連携して実施しています。毎年行政と当会担当理事者での「那覇市医療協議会」を1回開催し、その後は、実務担当者同士で細か

く煮詰めていきます。何事も顔の見える形で協議、話し合いすることはとても重要だと思います。かなり以前ですが、これまでの麻疹予防接種は集団接種でしたが、当会が一番早く個別化接種方式に移行できました。なお、最近では乳幼児健診も那覇市集団検診体制から個別化で検診体制が取れるよう交渉中です。

今後も、市行政と当会は緊密に連携を取りながら、市民の健康を増進・守る形で役割を担っていきたいと考えています。

Q7. 先生は、ゴルフ、カメラ、ダイビング等多趣味でいらっしゃいますが、最近特に興味を惹かれたこと、熱中していること等がありましたらお聞かせ下さい。

また、日頃の健康法、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

最近は、特に週末の県外出張が多くなり、日曜日のゴルフの回数が減ってきました。勿論スコアもハンディキャップも下落傾向にあり、ラウンド中もストレスに感じる事が多くなって

きました。でもシングルを何とか維持できるよう、理事会終了後の夜遅くに僅か15分でもレンジに行って練習しています。また、ゴルフに必要な筋力も落ちないようにストレッチ、筋トレマシンでのトレーニングなどを行っています。

模合や会合懇親会等に参加しても酒の量も減り、美味しい料理にも箸をつけずに維持量を食べて体重現状維持を心がけています。一緒に飲んでいる人には申し訳ないのですが。

ダイビングは、やはり危険性をともなうので、那覇市医師会チャリティ写真展に出品するためにだけ行くようになりました。ダイビング暦は28年になりますが、ゴルフ同様に潜る回数は減っています。

座右の銘は「臥薪嘗胆」「一步一步、牛歩のごとく」(丑年生です。笑い・・・)

この度は、インタビューへご回答いただき、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 玉井 修